

知事記者会見の概要

日 時：令和3年5月19日(水) 10:00～10:46

場 所：502会議室

出席者：知事、広報広聴推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 新型コロナ対策認証制度について

代表質問

- (1) 新型コロナウイルス感染症のワクチン接種について
- (2) 県独自の緊急事態宣言等について

フリー質問

- (1) コロナ禍における部活動大会のあり方について
- (2) 発表事項に関連して
- (3) 東京2020オリンピックについて
- (4) 代表質問に関連して

< 幹事社：山新・時事・SAY >

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。新型コロナについて申し上げます。

県内では、ゴールデンウィークの時の帰省など、県境をまたぐ往来に関する感染事例が確認されております。また、高校生の部活動ですとか、カラオケ設備を提供している飲食店、そういったところでクラスターが発生しまして、5月11日から8日間連続で2桁台の感染者が確認されているところであります。感染の再拡大の動きが見られるところです。

また、県内でもN501Y変異株への置き換わりが相当進んでおります。今後、この変異株が増加して、爆発的な感染拡大や医療提供体制のひっ迫、重症者の増加などにつながるおそれがありますので、大変大きな危機感を持っているところであります。

そこで、県民の皆様には、あらためて、基本的な感染防止対策、そのことを徹底してくださるようお願いしたいと思っております。

正しいマスクの着用、そしてこまめな手洗い、消毒、三密回避、こういった基本的な感染防止対策、これをですね、本当にこれが基本でありますので、徹底してくださるようお願いいたします。

では、まず、高校生の感染防止対策について申し上げたいと思います。県では、県教育委員会と連携して、高校でのクラスター発生を受けて私立高校にも要請を行いながら、村山地域の高校の部活動に関し、他校との交流制限の期間を延長しました。活動内容につきましては、密集・接触を避け、マスクを着用しても活動できる内容に制限するほか、全県的には「部活動緊急点検チェックリスト」により体調確認や活動場所での検温の実施など感染防止対策の徹底を図っております。

また、17日に山形駅、18日に北山形駅で啓発チラシを配布しまして、列車やバスを利用した通学時における、マスク着用など飛沫感染防止の徹底、乗車マナーの遵守などの注意喚起や、こまめな窓の開閉など換気への協力などの呼びかけを行いました。そのほか、JR東日本や山形鉄道、市町村の協力もいただき、県内の主要な駅の構内や改札口を出た自由通路等に、チラシと同じ内容のポスターを掲示したところであります。部活動の指導者など関係者の皆様や、高校生の皆様には、大変厳しい状況であることをよく理解していただき、感染防止対策にご協力いただきますようお願いいたします。

次に、飲食店における感染防止対策について申し上げます。5月に入り、飲食店に起因するクラスターが複数確認されております。マスクを外した会話、会食、カラオケが最大の感染リスクです。飲食店の皆様には、お客様に対し、飲酒を伴うカラオケの利用は控えていただき、カラオケを利用する場合はマスク着用をお願いしてください。そして換気の徹底、手指消毒など、業種別ガイドラインの遵守をお願いいたします。

次は、県境をまたぐ往来についてであります。全国では、現在、9都道府県が緊急事態宣言、そして10の県がまん延防止等重点措置の対象区域となっております。県民の皆様、事業者の皆様には、改めて、緊急事態宣言や重点措置が適用されている地域との往来を控えていただきますとともに、新規感染者が多い地域、これは直近1週間で10万人あたりの新規陽性者数が15人を超える、そういう地域ですけれども、現在、全国では12県ございます。その地域との往来は十分に注意していただきますようお願いいたします。

それでは、私から発表が1点ございます。認証制度についてです。

飲食店等が取り組んでいる感染防止対策を県が認証する「新型コロナ対策認証制度」を立ち上げて3週間が過ぎました。昨日、5月18日時点で1,203件の申請がございました。そのうち350件の施設確認を行いまして、76件を認証したところでございます。認証ステッカーも今週月曜日、5月17日に完成しまして、交付を開始しているところです。

現在、県のホームページに認証施設の一覧表を掲載しているところです。このたび、認証店の位置情報をデジタル地図上で表示できるよう対応いたしました。また、スマホでも使いやすくするため、QRコードからも確認できるようにしたところでございます。

こういった対応は、「Yamagata幸せデジタル化構想」に基づく外部デジタル人材の活用策の一環として、本年4月から、やまがた幸せデジタル推進課に常駐している民間の専門人材の方との連携により、実現したものでございます。

この認証制度では、換気の方法や消毒薬の位置などの確認を行って、認証しておりますが、感染予防には利用するお客様自身の感染防止対策も不可欠であります。お店だけでなく、お客様のほうの感染防止策も必要でございます。「普段一緒にいる人と少人数・短時間で」、「会話の際はマスクを着用」していただきまして、大声での会話は避けるなど、感染対策に留意をしながら楽しんでいただければと思います。私からは以上です。

☆代表質問

記者

時事通信社の村上と申します。よろしくお願ひします。幹事社から2点、質問がございます。

1点目が大規模接種会場についてです。先日、政府が実施した調査で、都道府県と政令指定市で約30の自治体が、独自に大規模接種会場を設置するという回答をいたしました。あらためて、県として今後、大規模接種会場を設置する考えがあるかお聞かせください。加えて、今後、接種のスピードを高めていくために、何か県として実施していく施策があれば教えてください。

2点目ですけど、先ほども知事がおっしゃいました、感染者数が変異株の広がりとも合わせて高止まりしているという状況ですが、このような状況が続いた場合、今後再度の県としての独自の緊急事態宣言の発出だったり、国に対するまん延防止等重点措置の要請を行うお考えはあるのかお聞かせください。以上です。

知事

はい、わかりました。では、1点目について申し上げます。

東京都及び大阪府に、自衛隊、防衛省が運営する大規模接種センターが設置され、一昨日、5月17日に予約受付が開始されました。今後、薬事承認される予定の武田・モデルナ社ワクチンが使用されると聞いております。予防接種の実施主体は市町村であります。7月末までに65歳以上の方の接種を完了させるという政府方針のもと、政府自らによる大都市圏の接種を加速させるための取組みであると考えております。

政府からは、各都道府県に対しても、武田・モデルナ社ワクチンを使用した大規模接種会場の設置ができないか、検討を求められております。政府が求める大規模接種会場は、1つには、「2ヶ月～3ヶ月程度、継続して接種が可能であること」、それから2つ目として、「管内市町村の接種体制に影響を与えないこと」、そういった条件が示されております。

本県の65歳以上の方の接種につきましては、先週も申し上げたとおり、全国の中でも比較的順調に進んでいるところでございます。政府方針に沿って、希望される方が順調に接種を受けることができるよう、各市町村でご努力いただいていると考えております。従いまして、県としましては、目下のところ検討中ではありますが、大規模接種会場の設置につきましては、場所や設置期間、運営方法など検討を要する点が多々ありますほか、予診や接種を行う医師をはじめ、多数の医療従事者の確保が必要となりますので、これは、各市町村の接種計画・接種体制への影響が大きいことが見込まれます。それで慎重に検討する必要があると考えているところです。

それから、他に何か支援策は、というお話でございますけれども、先週、申し上げましたとおり、山形大学医学部からのワクチン接種へのご協力のお申し出がありまして、それで、山形市にご紹介をしたところでございます。

こういった、大学や医療機関と市町村との橋渡しをすることも接種を進めるうえでの重要な役割と考えておりますので、大規模接種会場の設置にこだわらず、市町村の接種が順調に進んでいくように、ワクチンの入荷など、政府の動きを的確に把握しながら、また、市町村が抱える課題、そういったこともお聞きをしながら、市町村の取組みを支援してまいりたいと考えているところであります。

それから、緊急事態宣言についてということですが、2点目です。

県内では、高校生の部活動や飲食店に起因するクラスターが複数発生するなど、5月11日以降、新規感染者が8日間連続で2桁となつてございます。また、感染力や重症化リスクが高いとされるN501Y変異株への置き換わりが相当進んでおりますので、今後、感染者の爆発的増加や医療のひっ迫、重症者の増加につながるおそれもありますので、大変な危機感を持っているところであります。

一方で、政府のまん延防止等重点措置が適用となった場合や、県独自の緊急事態宣言を

発出した場合は、人流が抑制されるということがありますので、地域経済に深刻な影響が生じることも予想がされるわけであります。

18日現在で見ますと、県全体の直近1週間の人口10万人あたりの新規陽性者数は11.97人となっています。村山地域では、村山地域はちょっとそれよりも高く、政府の示すステージⅢの指標、15人を超える17.50人となっております。その村山地域の中でも、特に山形市では、高校と飲食店のクラスターが並行して発生していることから、23.20人と高い水準になっております。県としましては、引き続き緊張感を持って、感染状況や医療のひっ迫状況を注視していきまして、今後どのような対応ができるかということを検討してまいりたいと考えております。

記者

ありがとうございます。

☆フリー質問

記者

すみません、山形新聞の田中です。冒頭知事から言及がありました、高校の部活動、コロナの関係ですけれども、先週、地区大会が終わって、これからいよいよ県大会、そして予定されている全国大会というふうに進んでいきます。とりわけ高校のインターハイに関しては、昨年は全国大会が中止になって、それぞれの県独自の大会に切り替わるなどしています。

高校3年間にとって、2年ぶりのインターハイに向けて県大会がこれから開かれるということになるわけですが、例えば知事ご自身は、どのような環境でその大会が運営されることが望ましいと考えているのか、無観客となった場合の、例えばネットでの視聴できるような環境を例えば整備する必要があるのかとかですね、高校生たちがどのように大会に臨んで、もしくは支えられる運営環境というのが望ましいかということについて、知事のお考えをお伺いしたいと思います。

知事

はい。そうですね、地区大会の時に、対戦相手の高校にも感染を及ぼしてしまったというようなこともありましたので、感染防止対策を徹底していただくということがもう大きな条件になると思っています。

学校というのはですね、部活動で完結するものではなくて、やはりほかの部活動とかまた対戦相手、いろいろなところに感染が広がり、また、とても大きなその背景があるわけですね。700人、800人という大きな単位がありまして、そこを、山形学院の時は全校検査、鶴岡東の時もそうでしたけども、もう大変なことになります。保健所とか、いろいろな関係機関が大変なことになって、また医療提供体制、そこも大変なことになりますので、負

荷が大きくなります。

そういったことを考えますと、やはりこの大会自体が、本当に気をつけていただかなければならない、そういうことだと思っておりますが、今記者さんがおっしゃったように、高校生の生徒さんにとっては、本当に一生思い出に残るといいますか、大変熱心に練習に励まれた結果の集大成といえますか、本当に情熱を燃やす大会でありますので、そういうことで開催もさせてあげたいという思いもありまして、やはりこの2つの両面を、両立させるということが大事なんだと思っております。

そこで教育委員会とも何回も話し合ったりしてきました。それで今から申し上げたいというふうに思っています。

先々週末に開催された高校総体の地区予選の特定の競技において、参加した複数の高校生が感染し、県立学校においてもクラスターが確認されているところであり、感染拡大については、予断を許さない状況にあります。

感染経路につきましては、現在も保健所において調査中と聞いているところでありますが、大人数が集合し、マスクを外さざるを得ない状況になることから、大会運営には十分な対策が求められるところであります。

先週の金曜日に、県教育委員会と連携して部活動における感染防止対策の強化を打ち出したところですが、まずは、各学校で感染防止策を徹底してもらいたいと思っております。そのうえで、県内の感染事例のほとんどが変異株に置き換わっている現状に鑑みれば、今後の各種大会に向けては、主催団体において一層徹底した感染防止策を講じてもらう必要があります。

県教育委員会からは、主催団体と連携して、感染防止の強化策を検討していると思っておりますが、健康福祉部とも十分に連携しながら検討を進めてもらうとともに、その対策が確実に実施されるためのチェック体制を確立するなど、安全な大会運営に向けて一層努力してもらいたいと考えております。あと、具体的なところは県教育委員会ということになるかと思えます。

記者

NHKの藤井です。今のに関連して、強化策を検討中ということなんですが、前回知事会見でも対戦校にも影響がということをおっしゃいましたが、それ以降わかっているところはあるのでしょうか。クラスターに関して感染経路とか判明したこと、それと強化策のポイントとして、どういったところが今抜け落ちていたというか、弱点なのかというところがあれば、今後どういったところを強化しなければいけないのかというのを、知事の口からどこかあれば伺いたいと思います。

知事

はい。地区総体の時の検証といえますか、そういったことで私がお聞きしたのは、例え

ばですね、具体的に言いますと、控室を複数の高校で使っていたということですか、あるいは応援する時に声をあげて応援していたといった、強豪校ほどどうしてもそういう傾向にあるようだというようなことを聞いたところでもあります。具体的な事例としてはそういったことでもあります。

記者

それと、これからの強化策というのはどういったところを強化していくべきと。

知事

そうですね、やはりただいま申し上げたように、一つ一つの個々の学校ごとに、しっかりと感染防止対策を徹底してもらおうということが一つでありますし、あと今朝もですね、担当部の話を聞いたのですけれども、大会といいましていろんな分野の、各種のスポーツと申しますか、ありますので、その種別にしっかりと運営をしていただく、責任者を決めるとか、そういったお話が出ております。

本当に地区総体でのさまざまな反省といったものを教訓を生かして、きっちりとしっかりと感染防止対策を行って、そして選手ができる限り力を発揮できるような大会にしてもらえればというふうに思っています。

記者

わかりました。あと、認証制度なんですけれども、始まって3週間ということで、1203件申請で350件確認で76件認証と、それぞれ数に開きがあると思うんですけれども、何か課題はありますかでしょうか。

つまり、申請しているところがもう1200件を超えているわけで、ただ76件なんですよね、認証は。どんどん増えればいいなと思うんですけれども、その辺課題をどう考えているのか、今後行政としてすることがあれば教えてください。

知事

はい。300件ぐらい例えば調査して、70件ぐらいですよ、認証できたのは。ということでもありますので、やはり対策が、ガイドラインに沿ってしっかりと対策されていたかという、やはり不足していたということになるんだと思っています。

ですから、その調査ということで活動をしながら、具体的なその感染防止対策を説明すると言いますか、教えると言いますか、そういった具体的にどうすればいいんだということがなされないまま宣言店とかそういったことになってしまったかなということだと思っていますので、やはりここでしっかりと具体的な感染防止対策、そのことをお示ししながらですね、一緒になって「こことこことこが足りない」というようなことで具体的にお示しをして、そこを対策していただくということになると思っています。

そしてもう1点は、やはりそれは無料でなんでも対策できるわけではありませので、費用がかかります。その費用をですね、やはり補助金というような、補助制度ということで創設してありますのでご活用いただいて、そしてできる限り安全な環境づくりということで進めていただきたいと思います。

記者

あと加えて言えば、スピード感というか、その辺、民間も活用ということを知事おっしゃっていましたが、その辺のスケジュール感というか、いつぐらいから始められるかとかありますか。

知事

そうですね、なるべく早く民間の方々にも手伝っていただいて、数多くですね、認証店が誕生するよということをお願いしておりますので、できるだけ早くというのが今月中ということだったかなと思っておりますが、具体的に答えてもらいます。

防災くらし安心部次長

防災くらし安心部の林です。民間の方と一緒に確認を行うという取組みにつきましては、既に今週から実施しておりますので、そういった取組みを通して、認証できる事業者さんを増やしていきたいなというふうに考えてございます。

記者

今週からなんですか。もう始まっているんですね。どんな形で。

防災くらし安心部次長

どういう形態でということですけども、県職員のほうとそれから民間の方と一緒に回っているという形になっています。

記者

あと最後にですね、代表の質問でもあったかもしれませんが、独自の宣言を出すとか、そういうことに当たって、変異株の要素をどのように考えているかというのは毎回お聞きしていたんですが、この辺、基準は変わらないんですかね。1桁台とか2桁台とか毎回基準にしていたんですけど、変異株は感染力が強いとされているので、そのあたりは検討もされていないのでしょうか。

知事

はい、具体的なその基準と申しますか、そこを見直すということまでは至っていないと

ころであります。変異株が、例えば1.3倍、1.5倍、2倍といったように、感染力が強いということであれば、やはり今のところいろいろ考えなければいけないというふうにも思っておりますけれども、今のところ人口10万人あたりの直近1週間の、陽性者数、率といったことを政府で感染の多い地域とか、まん延防止等重点措置とか、それから緊急事態宣言ということ、実際にそのようなことをしておられますので、県としてもそのようなことで基準にはしているのですけれども、ただ、これまでどおりでいいのかという思いはありますので、それと、やはりもう一つはワクチン接種、そのことをとにかくしっかり進めなければという思いもあります。

あと、認証制度というもので取り組んでいるということもあって、本当に3つのやり方といますか、そういった、昨年とは大分違うのはそこかなと思っておりますけれども、どんどんとワクチン接種を進めていくというのが最も活路を開いていく上では大事なことかなと思っておりますので、その医療提供体制というものを、しっかりと注視しながら、ひっ迫しないようにしていくということを考えながら、できる限りの対応を行っていかねばいけないと思っております。

記者さんがおっしゃるその変異株は大変今までと違うので、どういうふうに変えたかということになりますと、我々の意識は大変強くなっていると思っておりますけれども、その変異株に対する脅威というものをですね、ひとつにはやはり意識というものも持っていただく、特に学校とかそういったところで、製造業とかそういうところではものすごく、明日の生活にも関わってくることになるので、ものすごく危機感を持って対応していることを私は見聞きしておりますけれども、まだまだですね、学校などは私はもっともっと危機感が必要ではないかなというふうに思っているところでありますし、あと小売店の店長さんのお話などお聞きしますと、ちょっと気が緩んできているのではないかと、マスクをしないでお買い物をしている方も見かけられるようになったというようなことも聞いておりますので、やはり今一度あらためて新型コロナウイルスに対する意識ですね、身の回りに常にある、いつでも感染がなるんだという、自分も持っているかもしれない、といったことについて、強い意識を持っていただくということがまずは大事なのかな、と思っております。

そして、基準の見直しということについては、ちょっと今具体的な見直しまではいっていないところでありますけれども、日々の対策ということでしっかり行っていきたいと思っております。

記者

共同通信の阪口です。毎週お伺いして大変恐縮なんですけれども、聖火リレーについて、何週間ですかね、目前に迫ってきました。ぞくぞくと公道でリレーをすることを中止する自治体も増えてきておりますけれども、現状なにか計画について見直しの方針であるとか、ありましたらお伺いできますでしょうか。

知事

はい、聖火リレーですけれども、6月初めなので着々と近づいてきております。この聖火リレーはオリンピック本番への気運を高め、国内外を盛り上げ、大会につなげていくための大切なイベントだと考えております。本県におきましては、県民の皆さん、ランナーの皆さんが楽しみにしている聖火リレーでありまして、現時点では十分な感染防止対策を行った上で、安全安心な環境で予定通りに実施できればと考えております。

ただし本県においても、変異株の感染拡大など懸念される状況が出てきておりますので、県独自に策定した聖火リレーのコロナ対策に関する行動計画に沿ってしっかりと対応していく必要があると考えております。具体的には、沿道で密になりやすい観覧ポイントへのスタッフの重点配置や、全スタッフが注意事項を明記したビブスを着用して感染防止を呼びかけるなど、工夫しながら市町村と連携してできる限りの感染防止対策を講じて参ります。今のところ、そういった感染防止対策をこれまで以上にしっかりとしながら実施する、という方向でございます。

記者

あわせて、五輪について、本大会についても、先週は「希望になる」というお話ありましたが、どんどんまだ変異株が広がっている状況で、だんだん深刻になってきていると思うのですけれども、その考えに変わりはないでしょうか。

知事

そうですね。本当に、変異株というのは大変驚異的なものだと思っておりますけれども、緊急事態宣言というものも9都道府県に発令され、まん延防止等重点措置も、10県が対象区域となっておりますし、そういったことで、ある程度は、爆発的に感染に向かうというようなことは阻止されつつあるのかなというふうに見ています。ですから、感染防止対策をしっかりと行った上で、オリンピック・パラリンピックを実施して、世界中の方々に希望、喜びというものを届けることは非常に大事ではないか、という思いは今も同じであります。

記者

もう1件すみません、一部で聞こえたんですけれども、緊急事態宣言について全国に拡大すべきだみたいな意見も一部あったりしたと思いますが、そういった考え方について、知事はどのようにお考えですか。

知事

そうですね。私はまったく反対するということではないですね。やはり短期間であれば、全国でしっかりと対策を、緊急事態というようなことでしっかりとウィルスを封じ込めるといえるのは、それは効果があるのではないかというふうには思っております。やはり人の移動で

感染拡大します。そして自粛というのですかね、そういったことが大変効果があると思っております。ただ、これをやりますと、本当に地域経済、全体の経済も大変深刻なことになりますので、経済対策とセットでなければ、それはたいへんなマイナスも出てくることになるかと思っておりますので、やるならば経済対策とセットで、ということをお願いしたいと思っております。

記者

テレビユー山形の西山と申します。よろしく申し上げます。認証制度についてなんですけど、飲食店とかは人が本当にここまで来なくて、やっとこういう制度ができて人が来るんじゃないかということで期待を持っていると思っております。

ただ、知事のお話にもありましたが、飲食店でクラスターなども起こっているという状況ではあるんですが、冒頭の発表でのメッセージといたしますか、知事はこういう風な認証店を一覧にしたことによって、県民にどういうふうにしてほしいとメッセージを込めて、今回こういうふうな発表をしたのか、あらためて教えてください。

知事

はい、山形県の新型コロナ対策認証制度を始めましたけれども、それは、やはりしっかりと感染防止対策を行っているお店で安全安心に飲食を行っていただく、そういうお店が増えるということを大変期待しております。そして、安全ならば食べに行ってみようかなというようなことで、県民の皆さんもですね、やはりお出かけになる、そこで経済活動になるわけでありますので、地域経済の再生に向けて、そしてまた感染拡大防止と地域経済の再生という言葉を使っていますけれども、その両立ということを考えての制度だというふうに思っています。(補足：会見場のモニターを示しながら)ですから位置情報も、これはQRコードですね、ここにスマホをかざすと情報がみられる。こういったふうにわかりやすく、店名だけでなく、位置情報も、このように山形市内もありますけれども、寒河江とかですね、大蔵村もありましたね。宿泊施設もあつたりしますので、ぜひこういったことを、情報を県民の皆さんにはしっかりと把握していただいて、そして安全に楽しんでいただきたいというふうに思っています。

また、そういったことで、お客さんが戻っていくということになりますと、ほかのお店でも、やはり、そのように認証ということで、認証制度を活用して、対策をしっかりと行っていただいた上で、またさらにお客さんが多くのお店に戻っていただけるということになっていくと思っておりますので、ぜひ認証店が増えてほしいなと思っております。県民の皆さんにはこういった情報も取りながら、そして楽しんでいただければと思っております。

記者

わかりました。ありがとうございました。

記者

YTS の荒木と申します。知事ご自身のワクチン接種についてもう一度お聞きしたかったんですけども、以前、知事は順番が来れば接種を受けたいとおっしゃっていたかと思うんですが、今、市町村長の接種の在り方とかで話題になっていたり、知事ご自身もコロナ対応のトップというお立場かと思うのですけども、かつ今山形市のほうも順調にどんどん接種の予約なんかも進んでいます、現時点で知事の接種する日程とか、なにか見込みはあるのかということと、あらためて知事ご自身が接種する事への思いをお聞かせください。

知事

そうですね、私は一般の方と同じように予約をいたしまして、そして確か今月の末に 1 回目、そしてその 3 週間後、6 月の中旬になるかも分かりませんが、2 回目という予定であったかと思えます。そういうことで着々と進めていきたいと、自分自身も思っております。

それに対する思いですね。ワクチン接種というのは新型コロナウイルス感染症、世界中、全国にまん延しておりますけれども、そこを対策する上での要でありますし、私などが思いますには、本当に今これが活路であって、本当に大きな、なんというんでしょうか、救世主まで言うと大げさすぎますけれども、でも本当にここは要中の要であります。2 回接種が終われば行動が自由になるとまでは言えるかどうか分かりませんが、マスクしなくてもいいとバイデン大統領がテレビでおっしゃっていたのをちょっと拝見しましたがけれども、それはどうか医療従事者に聞いてみたいなと思っておりますけれども。ただ多くの人が接種をすることで安全になるということであれば、安心して行動できるということになりますので、コロナ以前の生活に近づくことができるというふうに思います。友人たちとも自由に会ったり、個人的なことを言えば、そういったこともできるのかなと大変楽しみにしているところであります。お買い物ももっと自由にできるようになるかな、とかですね。それは全て経済活動につながっていきますので、私は多くの方が接種を受けてくださる中で、地域経済が回復していくというふうに思っております。私の存在もその 1 つだと思っておりますので、しっかりと受けていきたいと思っております。

ただ、その受ける受けないで、誹謗中傷が起きないようにしてほしいというご要望もいただいているんですね。だから、受けたくないという方も中にはいらっしゃいますので、これまで 1 割近くそういった方々がいたということも聞いていますし、ご事情があったりお考えがあったりして受けられない方もおりますので、受けない方への誹謗中傷は絶対にやめていただきたいと思っております。